

室蘭工業大学国際交流センター

Center for International Relations
Muroran Institute of Technology

2022年度

活動報告書

Annual Report, 2022



目 次

1. 報告書の発刊にあたって	1
国際交流センター長 木幡 行宏	
2. 国際交流ポリシー	2
3. 国際交流センターの業務	3
4. 国際交流センターの組織	4
5. 学内及び学外の会議等	6
6. 国際学术交流	10
7. 外国人留学生	15
8. 国際交流センター教員が担当した講義	24
9. 室蘭工業大学国際セミナー	29
10. 留学生を対象とした行事及び研修等	30
11. 学术交流協定校・機関との交流	34
12. 学生の海外への派遣	37
13. 外国人短期研修生・外国人インターンシップ研修生・外国人研究員受入れ	40
14. 国際交流クラブ	42
15. 広報活動	43
16. 教員の研究活動	45
17. おわりに	48

国際交流センター准教授 白 尚燁

1. 報告書の発刊にあたって

国際交流センター長（副学長） 木幡 行宏

2020 年度初頭からパンデミックとなった新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、2022 年度に入ってから新型コロナワクチンの普及やウィルスの弱毒化などにより、重篤な状態や死に至る感染者が徐々に減少傾向となり、終息する兆しが見えてきたところです。まさに、長く暗いトンネルから、ようやく抜け出すような状況にあるといっても過言ではないでしょう。

新型コロナウイルス感染症が流行してから、本学の国際交流活動は遠隔で行わざるを得ず、海外派遣に関しては「延期」または「中止」を基本原則としてきました。しかし、2022 年 3 月に北海道を対象とした「まん延防止対策等重点措置」が解除されたことに伴って、本学の行動指針 (BCP)も引き下げられたことから、海外派遣条件の緩和を行いました。その結果、派遣留学 14 名、語学研修等 1 名の合計 15 名の日本人学生を派遣することが出来ました。

2022 年 10 月現在、196 名（13 国）の留学生在が本学で勉強しています。国際学術交流協定を結んでいる大学機関等は、2022 年度末時点で 50 大学、4 機関で、22 か国となっています。2022 年度の外国人留学生の受入れ状況をみると、今年度中に入学した国外在住の留学生は 39 名でしたが、長引く入国規制等によって入学辞退や退学した者も 10 名おりました。今回は大変残念でしたが、再度、本学に留学する機会を得ることを願っております。

本学では、留學生に、勉学や研究以外にも、日本の伝統行事や文化、北海道の雄大な自然に触れることで、より深く日本のことを知ってもらうために、見学旅行やさまざまな体験ツアーを国際交流センター行事として行っていますが、コロナ禍ではすべて中止せざるを得ませんでした。しかし、今年度は、これらの行事についても条件付きではありますが実施することが出来ました。徐々に、新型コロナ前の状況に戻つつあることを大変嬉しく感じているところでございます。

コロナ禍では、国内の経済状況が悪く、全国で学生諸君のアルバイトは激減する状況でした。本学の留學生においても経済的に困窮している学生がみられました。そこで、本学では新型コロナウイルス感染症の影響を受けた留學生に対する支援策の一つとして、国外在中の留學生が入国した際の感染症に対する防疫措置によって生じる経済的負担を軽減するため、入国支援金として 1 人当たり 10 万円を給付する措置を講じ、20 名の留學生に支援することが出来ました。これらの学生たちが、高い意欲と向上心を持って本学で学び、研究に励むことで、世界に羽ばたく研究者や技術者に育っていくことを期待しております。

国際交流センターにおいては、昨年度、山路奈保子国際交流センター長が異動したことからスタッフに欠員が生じておりましたが、2022 年 10 月付けで坂本裕子准教授が、新たに着任いたしました。坂本先生におかれましては、親切丁寧に留學生に接して頂いており、特に女子留學生に対しては些細なことでも親身になって相談に乗ってくれています。本学国際交流センターの教職員の方々とともに、今後のご活躍が大いに期待されるところです。

最後に報告書の発刊にあたって、2022 年度活動報告書が、本学のさらなる発展と新たな飛躍への基礎資料となれば幸いです。

2023 年 3 月 30 日

2. 国際交流ポリシー

室蘭工業大学国際交流ポリシー

平成24年3月16日制定

(前文)

大学における研究活動のグローバル化はもとより、高等教育の国際市場化、大学卒業者雇用の国際化が進む情勢の中で、室蘭工業大学の国際交流の基本的な考え方を示し、教職員の活動、施策立案の指針とするために、本国際交流ポリシーを制定する。

1. 基本姿勢 室蘭工業大学は「幅広い教養と深い専門知識とともに国際社会で通用するコミュニケーション能力、実践力を持つ人材を育成する」との目標を実現し、本学の基本理念に基づいて国立大学として期待される国際的機能を果たすために、教育および研究における国際交流を推進する。
2. 教 育 国際活動に必要なコミュニケーション能力とは、語学力のみでなく、積極性、行動力、自国および他国の文化に対する理解等を含む幅広い実践力であり、留学生を含む本学学生の全てがこのような能力を持つよう、教育上の努力をする。教職員もまた高いコミュニケーション能力を涵養し、国際的に貢献する。
3. 研 究 教員は研究成果を世界に発信するとともに、海外機関との交流を推進して、研究の一層の活性化に努める。これはまた、学生の国際活動能力、研究能力向上のための教育活動でもあることを認識して研究を推進する。
4. 留学生受入 各種の留学生を積極的に招致する。学部留学生、大学院留学生、その他の短期留学生の適切な配分に留意し、本学の教育研究に資する優秀な学生の招致に努める。またそのための受入れ体制、教育体制の整備、更新を推進する。
5. 地域貢献 地域の国際交流に大学として貢献するとともに、地域の国際交流力を本学の国際活動、国際教育の推進に積極的に活用する。
6. 運 営 上の国際交流推進のため、教育プログラム、施設および学習環境、広報および海外ネットワーク、事務体制およびリスク管理体制、ならびに、これらに必要な予算措置について、長期的な展望をもってその整備を進める。

(付記)

国際交流とは、本学教職員学生による教育、研究上の、海外機関および外国人との交流活動全般をさす。研究成果の国際的発信および研究教育上の交流、各種留学生の受入れと教育、本学学生の国際性教育に関わる外国機関、外国人との交流、事務職員の国際活動を含む。

3. 国際交流センターの業務

国際交流センターの業務は、次のとおりである。

(1) 国際交流事業に関すること。

- ・ 外国の大学等との交流協定締結、更新等の支援事務
- ・ 交流協定校等との交流事業及び行事の支援
- ・ 本学教職員の国際活動の支援
- ・ 本学学生の国際性教育の支援
- ・ 本学の国際交流推進に関わる企画、立案及びその支援

(2) 外国人留学生に関すること。

- ・ 留学生(正規生、研究生、聴講学生、短期研修生、インターンシップ研修生を含む)の受入れ支援及び受入れの促進
- ・ 留学生に対する日本語教育その他の教育と、共通教育及び専門教育の修学支援
- ・ 留学生のための宿舎など生活支援に関わる業務及び相談への対応
- ・ 留学生のための各種奨学金の広報、応募、申請、配分支援などに関わる業務
- ・ 卒業・修了者も含めた留学生との交流促進

(3) 外国人研究員に関すること。

- ・ 外国からの研究員及び教職員の受入れ支援

(4) 学生の海外派遣に関すること。

- ・ 本学学生の海外留学、短期研修、国際会議参加などの支援

(5) その他国際交流及び留学生に関すること。

- ・ 国際交流に係わる他大学、地域自治体及び諸機関との連携活動

4. 国際交流センターの組織

4.1 国際交流センターの構成員

2022年5月1日現在の当センターの構成員は、以下のとおりであった。

国際交流センター長・副学長	木 幡 行 宏
専任准教授	小 野 真 嗣
専任准教授	白 尚 燁
入試戦略課国際交流室	
国際交流室長	伊 藤 光 春
国際企画係長	坂 下 健 史
国際企画係主任	田 嶋 学 (兼務)
国際企画係員	小 林 誠 (兼務)
留学生係長	永 利 卓
留学生係主任	高 橋 秀 徳
再雇用職員	西 畑 寿 幸
事務補佐員	藤 田 桂 子
事務補佐員	小 林 麦 子

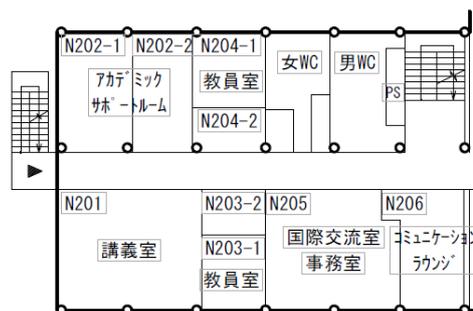
計12名

4.2 センターの活動拠点

国際交流センターの活動拠点は、以下の図及び写真に示す事務室、コミュニケーションラウンジ、アカデミックサポートルーム並びに専任教員の教員室である。



事務室



N棟2階フロアマップ



コミュニケーションラウンジ

4.3 国際交流委員会

2010年度から、従来の兼任教員に代わって「国際交流委員会」が発足した。その任務は、次のとおりである。また、議題の審議のみでなく、本学の国際交流に関連する企画立案、提言及び事業実施への協力支援の機能も期待されている。

- (1) 国際学術交流及び国際交流事業に関すること。
- (2) 外国人留学生の受入れに関すること。(外国人留学生入試に係るものは除く。)
- (3) 外国人留学生の奨学金に関すること。
- (4) 学生の海外留学に関すること。
- (5) 外国人研究者の受入れに関すること。
- (6) 外国人インターンシップ研修生の受入れに関すること。
- (7) その他国際交流事業及び外国人留学生に関する事項

所 属	職 名	氏 名
—	理事（研究・連携担当）	船 水 尚 行
国際交流センター	教 授 センター長	山 路 奈保子
国際交流センター	准教授	小 野 真 嗣
国際交流センター	准教授	白 尚 燁
創造工学科	教 授	木 村 克 俊
創造工学科	准教授	立 山 耕 平
システム理化学科	教 授	佐 伯 功
システム理化学科	教 授	竹ヶ原 裕 元
理工学基礎教育センター	教 授	クラウゼ 小野 マルギット
理工学基礎教育センター	准教授	ペレム ジョン ガイ
しくみ解明系領域	准教授	佐 藤 和 彦
しくみ解明系領域	准教授	安 藤 哲 也
しくみ解明系領域	助 教	澤 田 紋 佳
国際交流室	室 長	伊 藤 光 春

5. 学内及び学外の会議等

5.1 国際交流委員会

国際交流委員会は、(1) 理事又は副学長のうちから学長が指名する者、(2) 国際交流センター長、(3) 国際交流センター専任教員、(4) 各学科及び全学共通教育センターから選出された講師以上の教員各2名(1名は教授)、(5) 国際交流室長、(6) その他学長が必要と認めた者で組織される。

2021年度の国際交流委員会開催日及び審議事項等は、以下のとおりである。

第1回 5月9日(月)

議題1. リモート開催時の運営について

2. モンゴル・工業技術大学との学術交流協定更新について
3. アメリカ・エイムズ研究所との学術交流協定更新について
4. 韓国・ソウル科学技術大学校との学術交流協定更新について
5. ドイツ・ツヴィッカウ応用科学大学との学術交流協定更新について

報告1. 2022年度第1回外国人客員研究員支援経費公募選考結果について

2. 民間団体等からの奨学金受給者の選考結果について
3. 2022年4月留学生受入状況について
4. 2022年度後期ムロラン・グローバル・ステージ・チャレンジ奨学生の公募について
5. 2022年度後期佐藤矩康博士記念国際活動奨学賞の募集について
6. 第4期中期目標期間に係る事業計画の工程表について

第2回 7月13日(水)

議題1. 研究生(外国人留学生)の選考について

2. 室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金受給者の選考について
3. 台湾・国立勤益科技大学との学術交流協定締結について(学術交流に関する覚書及び学生交流に関する協定の締結)
4. フィンランド・アールト大学電気工学部との学術交流協定更新について(学術交流に関する覚書の更新)

報告1. 派遣プログラムの募集について

2. 国際交流会館(研究員宿舎)の使用再開について(追加)

第3回 7月28日(木)(持回り)

議題1. CSC-MuroranIT 奨学金受給者の決定について

第4回 10月6日(木)

議題1. 室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金受給者の選考について

2. 文部科学省外国人留学生学習奨励費留学生受入れ促進プログラム(就職支援特別枠)の受給者選考について
3. 中国・蘇州大学との学術交流協定更新について
4. 中国・瀋陽工業大学との学術交流協定更新について

報告1. 民間団体等からの奨学金受給者の選考結果について

2. 2022年度第2回室蘭工業大学外国人客員研究員支援経費公募選考結果について
3. 2023年度学術交流協定に基づく派遣学生募集について(追加)

第5回 11月28日(月)

議題1. 室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金受給者の選考について

2. タイ・キングモンクット工科大学北バンコク校との学術交流協定締結について(学術交流に関する覚書及び学生交流に関する協定の締結)

報告1. 派遣留学生の選考結果について

2. 春期語学研修の実施について
3. 国際共同研修プログラムの実施について(追加)

4. その他（ムロラン・グローバル・ステージ・チャレンジ奨学生及び佐藤矩康博士記念国際活動奨学賞の募集について）

第6回 1月30日(月)

- 議題1. 特別研究学生（外国人留学生）の受入れについて
2. 特別聴講学生（外国人留学生）の受入れについて
 3. 室蘭工業大学短期留学生（受入れ）支援奨学金受給者の選考について
 4. 研究生（外国人留学生）の選考について
 5. タイ・メー・ファー・ルアン大学との学術交流協定締結との学術交流協定締結について（学術交流に関する覚書及び学生交流に関する協定の締結）
 6. 中国・河南理工大学との学術交流協定更新について（学術交流に関する覚書及び学生交流に関する協定の更新）
- 報告1. 民間団体等からの奨学金受給者の選考結果について
2. 国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムの申請結果について
 3. 2023年度学術交流協定に基づく派遣学生募集について

第7回 3月3日(金)

- 議題1. 大学推薦による国費外国人留学生（研究留学生）の選考について
2. 2023年度国際共同研修プログラム及び国際学術活動支援プロジェクトの採択について
 3. 中国・華中科技大学との学術交流協定更新について（学術交流に関する覚書及び学生交流に関する協定の更新）
- 報告1. 2023年度日本学生支援機構海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）の申請に係る採否結果について
2. 2023年度日本学生支援機構協定派遣「工学系グローバル人材育成派遣プログラム」の派遣学生募集について

5.2 国際交流センター教職員打合せ会議

定期的にセンター教職員が集まって連絡調整を兼ねた打合せ会議を開催している。

5.3 令和4年度北海道・中国交流推進連携会議

開催日：5月31日（火）、場所：オンライン開催

主催：北海道

- ・令和4年度(2022)中国との交流事業について
- ・北海道の事業、欠席委員の事業について

5.4 室蘭市国際交流推進協議会総会

室蘭市では、国際化時代に対応した地域づくりを進めるため、全市的視野から国際交流を推進することを目的に、室蘭市国際交流推進協議会を組織している。本学は会員として参加するとともに、会長職に空閑良壽学長が就任している。

開催日：6月1日（水）、場所：書面開催

主催：室蘭市国際交流推進協議会

構成：室蘭工業大学、一般財団法人 室蘭市スポーツ協会、室蘭商工会議所、国際ソロプチミスト室蘭、室蘭文化連盟、登別室蘭青年会議所、胆振国際理解教育研究会、室蘭ロータリークラブ、室蘭ライオンズクラブ、室蘭市女性団体連絡協議会、一般財団法人 室蘭ルネッサンス、ノックスビルの会、日照市と友好の会、その他諸団体・機関

- 議題：1. 令和3年度主な事業実績について
2. 令和3年度事業決算書について
 3. 令和4年度主な事業計画（案）について
 4. 令和4年度事業予算書（案）について

5.5 マレーシア日本高等教育プログラム(UniKL JUP)進学説明会

開催日：6月19日（日）、場所：オンライン開催
出席：藤木教授、川口教授、小野准教授、高橋留学生係主任
主催：クアラルンプール大学（UniKL）
内容：UniKL 大学説明会（日本の大学への3年次編入学者対象）

5.6 多文化共生ネットワーク連携推進協議会

開催日：6月23日（木）、場所：オンライン開催
出席：高橋留学生係主任
主催：公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター
・議題
各団体における令和4年度の主な取り組みについて
令和4年度多文化共生に係る地域連携事業について

5.7 2022年度国立大学法人留学生センター等留学生指導担当研究協議会

開催日：7月4日（月）、場所：オンライン開催
主催：東京大学
内容：
・留学生受け入れ政策をめぐる近年の動向
・留学生受け入れ戦略の国際的動向と日本の状況—今後に向けて

5.8 令和4年度留学生交流実務担当教職員養成プログラム

開催日：8月29日（月）、場所：オンライン開催
主催：日本学生支援機構
内容：派遣日本人学生のリスク管理・危機管理

5.9 2022年度ハノイ工科大学と日本コンソーシアム大学とのツイニング・プログラム大学説明会

開催日：11月4日（金）、場所：オンライン開催
出席：藤木教授、永利留学生係長
主催：長岡技術科学大学
内容：大学説明会（日本の大学への3年次編入学者対象）

5.10 令和4年度 国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会

開催日：11月30日（水）、場所：オンライン開催
出席：木幡センター長、伊藤室長
主催：熊本大学（当番校）
内容：いま大学に求められる国際戦略とは

5.11 令和4年度全国国立大学法人留学生センター長及び留学生課長等合同会議

開催日：11月30日（水）、場所：オンライン開催
出席：永利留学生係長
主催：東京医科歯科大学（当番校）
・留学生交流の現状と今後の見直し
・日本学生支援機構が実施する留学生支援事業
・各大学における取り組み例の紹介

5.12 令和4年度北海道留学生交流推進協議会

開催日：12月8日（木）、場所：オンライン開催

主催：北海道大学

内容：・講演

「障害学習支援～大学における合理的配慮とその課題」

榊原佐和子（北海道大学学生相談総合センターアクセシビリティ支援室室長）

・報告

各団体からの報告事項等

北海道内における留学生受入等の現状について

石黒公美（北海道大学学務部学生支援課課長補佐）

5.13 令和4年度室蘭工業大学留学生交流推進懇談会

本学の留学生は、市内外の国際交流推進関係諸団体から種々の支援を受けている。本懇談会は、これら諸団体に対し本学の留学生に対する取組状況等を説明し、意見交換を通して理解を得るとともに、今後の留学生受入れ及び学生生活に係るなお一層の支援を仰ぎ、留学生交流事業の円滑な推進を図ることを目的として開催した。

開催日：2月13日（月）、場所：室蘭市生涯学習センター「きらん」

主催：室蘭工業大学国際交流センター

出席団体：室蘭市役所、室蘭教育委員会、北海道胆振総合振興局、室蘭ロータリークラブ、室蘭北ロータリークラブ、一般財団法人 室蘭ルネッサンス、室蘭観光協会、国際ソロプチミスト室蘭、日中友好協会室蘭支部、留学生フレンドシップ、北海道新聞室蘭支社

・大学からの説明

室蘭工業大学の留学生受入れ・派遣状況及び交流状況について

・意見交換

留学生と地域の交流等について

5.14 令和4年度第2回ハノイ工科大学とのツイニング・プログラム 日本コンソーシアム会議

開催日：3月13日（月）、場所：オンライン開催

出席：藤木教授、高橋留学生係主任

主催：長岡技術科学大学

内容：・日本コンソーシアムへの福井大学の加盟について

・日本コンソーシアム規約及び運営細則の改正について

・ツイニング・プログラムに関する付属書の改正について

・令和5年度入学試験結果について

・令和4年度決算案及び令和5年度事業計画について

・TP学生の現状について

・日本コンソーシアム運営費の会計監査について

・ハノイ TP19期生調べ学習発表会について

6. 国際学術交流

国際学術交流協定

本学は、教育研究活動の国際化を進めるために、海外の大学、研究機関と学術交流協定を締結し、交流の促進に努めている。2022 年度末時点で 50 大学・4 機関と協定を締結し、研究交流ならびに学生交流を推進している。

国・地域別では中国 10 大学、韓国 8 大学・1 機関、ドイツ 4 大学、タイ 5 大学、ロシア 1 大学・2 機関、台湾 4 大学、フィンランド 2 大学、アメリカ 1 大学・1 機関、マレーシア 2 大学、ブラジル、フランス、オーストラリア、オーストリア、ハンガリー、ポーランド、ウクライナ、イタリア、ベトナム、インド、インドネシア、モンゴル、ネパールが各 1 大学である。

2022 年度は、台湾の国立勤益科技大学、タイのキングモンクット工科大学北バンコク校との交流協定を締結した。また、モンゴル・工業技術大学、アメリカ・エイムズ研究所、韓国・ソウル科技大学校、ドイツ・ツヴィッカウ応用科学大学、フィンランド・アールト大学電気工学部、中国・蘇州大学、瀋陽工業大学、河南理工大学、華中科技大学との交流協定の更新が行われた。

【国際学術交流協定】

以下のとおり、2022 年度末において国際学術交流協定は 50 大学・4 機関である。

(注)担当教員名は上段より連絡窓口 1、2、3 の順に記載

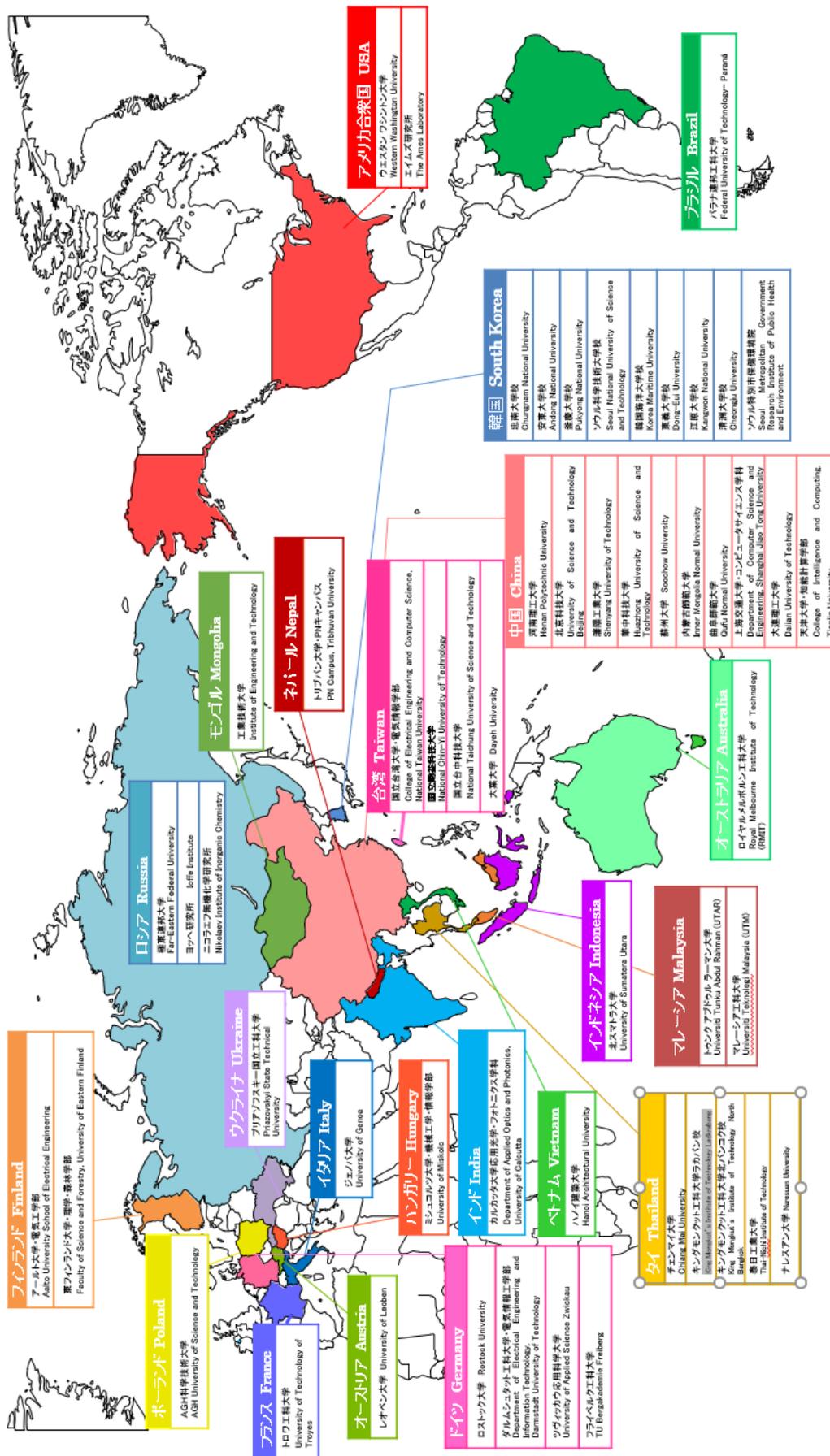
	締結大学・機関名	国・地域	締結年月日	担当教員名
1	河南理工大学	中国	1988 年 11 月 11 日	教授 青 柳 学
				教授 花 島 直 彦
2	ロイヤルメルボルン工科大学	オーストラリア	1999 年 3 月 9 日	准教授 小 野 真 嗣
3	ウェスタンワシントン大学	アメリカ	2000 年 10 月 27 日	准教授 ゲイナー ブライアン
				准教授 小 野 真 嗣
4	アールト大学電気工学部	フィンランド	2001 年 3 月 15 日	教授 花 島 直 彦
				教授 濱 幸 雄
5	北京科技大学	中国	2004 年 2 月 2 日	教授 濱 幸 雄
				准教授 倉 重 健 太 郎
6	ロストック大学	ドイツ	2019 年 10 月 10 日 <small>(情報電気工学部とは 2004 年 2 月 20 日)</small>	教授 川 口 秀 樹
				教 授 クラウゼ小野 マルギット
7	忠南大学校	韓国	2004 年 4 月 20 日	教 授 濱 幸 雄
8	安東大学校	韓国	2004 年 6 月 8 日	准教授 白 尚 燁
				教 授 藤 木 裕 行
9	釜慶大学校	韓国	2021 年 3 月 17 日 <small>(工科大学とは 2004 年 9 月 1 日)</small>	教 授 張 裕 喆
				准教授 金 志 訓
				准教授 白 尚 燁
10	チェンマイ大学	タイ	2005 年 4 月 19 日	教 授 風 間 俊 治 助 教 関 千 草

11	キングモンクット工科大学 ラカバン校	タイ	2005年4月20日	教授 佐伯 功 准教授 真境 名達哉
12	ニコラエフ無機化学研究所	ロシア	2005年5月30日	教授 関根 ちひろ 准教授 葛谷 俊博
13	レオベン大学	オーストリア	2006年10月10日	教授 川口 秀樹 准教授 武田 圭生 講師 松本 大樹
14	ミシュコルツ大学 機械工学・情報学部	ハンガリー	2006年11月13日	教授 川口 秀樹 准教授 武田 圭生 講師 松本 大樹
15	ハノイ建築大学	ベトナム	2007年3月27日	教授 木幡 行宏 准教授 山田 深
16	ソウル科学技術大学校	韓国	2007年7月25日	教授 張 睿 喆 教授 岸本 弘立
17	ダルムシュタット工科大学 電気情報工学部	ドイツ	2007年11月9日	教授 川口 秀樹 教授 渡邊 浩太
18	瀋陽工業大学	中国	2007年11月9日	准教授 白 尚 燁
19	華中科技大学	中国	2007年11月12日	教授 清水 一道 教授 董 晁雄
20	蘇州大学	中国	2007年11月26日	教授 太田 香 准教授 渡邊 真也
21	内蒙古師範大学	中国	2008年6月2日	教授 徳樂 清孝 准教授 加野 裕
22	韓国海洋大学校	韓国	2009年1月19日	教授 木村 克俊 准教授 吉田 英樹
23	AGH科学技術大学	ポーランド	2009年8月27日	准教授 白 尚 燁
24	極東連邦大学	ロシア	2010年2月19日	准教授 安居 光國 教授 濱 幸雄
25	泰日工業大学	タイ	2010年4月1日	准教授 佐藤 和彦 教授 藤木 裕行
26	プリアゾフスキー国立工科大学	ウクライナ	2010年11月11日	教授 清水 一道 准教授 吉田 英樹
27	大葉大学	台湾	2010年12月1日	教授 近藤 敏志
28	ヨッヘ研究所	ロシア	2011年7月12日	教授 関根 ちひろ 准教授 葛谷 俊博
29	ツヴィッカウ応用科学大学	ドイツ	2012年6月8日	教授 クラウゼ小野 マルギット
30	ソウル特別市保健環境研究院	韓国	2012年9月20日	教授 張 睿 喆 准教授 矢島 由佳
31	北スマトラ大学	インドネシア	2013年2月15日	教授 河合 秀樹 教授 大平 勇一
32	曲阜師範大学	中国	2013年4月1日	教授 河合 秀樹

33	東義大学校	韓国	2014年6月23日	教授 岸本 弘立
34	江原大学校	韓国	2014年10月3日	教授 岸本 弘立
35	パラナ連邦工科大学	ブラジル	2014年10月7日	教授 清水 一道 教授 木村 克俊
36	トゥンクアブドゥルラーマン大学	マレーシア	2016年3月1日	准教授 佐藤 和彦 教授 塩谷 浩之 教授 濱 幸雄
37	トロワ工科大学	フランス	2016年3月1日	准教授 加野 裕 教授 辻 寧英
38	国立台中科技大学	台湾	2019年12月1日 <small>(情報流通学院とは2016年11月8日)</small>	教授 近藤 敏志
39	カルカッタ大学 応用光学・フォトンクス学科	インド	2016年11月10日	准教授 加野 裕
40	上海交通大学 コンピュータサイエンス学科	中国	2016年12月26日	教授 董 晁雄
41	エイムズ研究所	アメリカ	2017年5月16日	教授 関根 ちひろ 准教授 葛谷 俊博
42	工業技術大学	モンゴル	2017年6月27日	准教授 小野 真嗣 教授 濱 幸雄 講師 松本 大樹
43	国立台湾大学・電気情報学部	台湾	2018年11月13日	教授 董 晁雄 教授 太田 香
44	トリブバン大学 プリティビナラヤンキャンパス	ネパール	2019年1月23日	准教授 佐藤 和彦
45	フライベルク工科大学	ドイツ	2019年1月25日	教授 クラウゼ小野 マルギット 准教授 安居 光國
46	東フィンランド大学 理学・森林学部	フィンランド	2019年3月18日	准教授 渡邊 真也 教授 董 晁雄
47	清洲大学校	韓国	2019年8月19日	教授 濱 幸雄 准教授 高瀬 裕也 准教授 金 志訓
48	ナレスアン大学	タイ	2019年9月19日	准教授 佐藤 和彦
49	ジェノバ大学	イタリア	2019年10月7日	教授 関根 ちひろ 准教授 雨海 有佑 准教授 葛谷 俊博
50	大連理工大学	中国	2020年5月9日	教授 董 晁雄 教授 曲 明

51	天津大学・知能計算学部	中国	2020年9月22日	教授 董 晁 雄 教授 太 田 香
52	マレーシア工科大学	マレーシア	2021年1月15日	教授 大 平 勇 一 准教授 小 野 真 嗣 准教授 白 尚 燁
53	国立勤益科技大学	台湾	2022年12月12日	准教授 小 川 祐 紀 雄 助 教 徐 建 文
54	キングモンクット工科大学 北バンコク校	タイ	2023年2月3日	教 授 佐 伯 功 准教授 安 藤 哲 也 教 授 亀 川 厚 則

図1 本学の学術交流協定校・機関



7. 外国人留学生

7.1 留学生数

本学は、1979年から外国人留学生を受入れており、2007年の国際交流センター設置後、留学生数も大幅に増え始め、2009年に初めて100名に、2017年には150名に到達し、2023年は166名を受け入れるに至った。

留学生数(学科別・学年別)を表1に、留学生数(国籍別・身分別)を表2に、留学生数(年度別)を表3に、過去20年の留学生数(年度別)の推移をグラフ1に示す。なお、本活動報告書は2022年度版であるが、最新のデータとして2023年5月1日の数字を計上した。

表1 留学生数(学科・学年別)集計(2023年5月1日現在 計166名)

【学部】

学 科 名	1年	2年	3年	4年	合計
創造工学科	5	6	11	15	37
システム理化学科	6	3	2	8	19
建築社会基盤系学科	-	-	-	1	1
機械航空創造系学科	-	-	-	-	-
応用理化学系学科	-	-	-	2	2
情報電子工学系学科	-	-	-	1	1
合 計	11	9	13	27	60

【博士前期課程】

専 攻 名	1年	2年	合 計
環境創生工学系専攻	4	7	11
生産システム工学系専攻	7	2	9
情報電子工学系専攻	15	14	29
合 計	26	23	49

【その他】

研究生	4
科目等履修生	0
特別研究学生	11
特別聴講学生	1
合 計	16

【博士後期課程】

専 攻 名	1年	2年	3年	合計
工学専攻先端環境創生工学コース	5	7	6	18
工学専攻先端生産システム工学コース	-	3	1	4
工学専攻先端情報電子工学コース	7	3	9	19
合 計	12	13	16	41

表2 留学生数(国・身分別)集計(2023年5月1日現在)

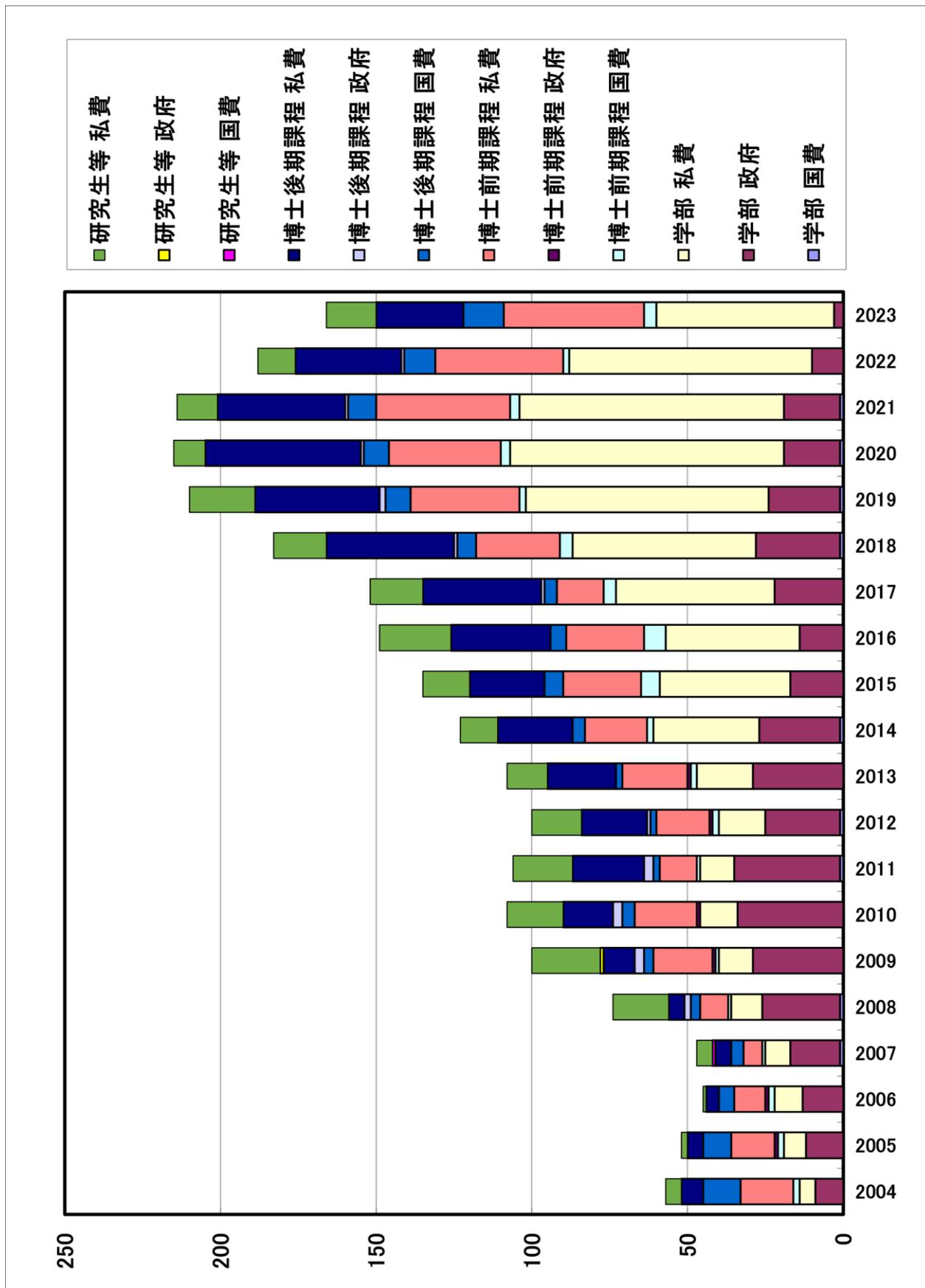
国名	学部			小計	博士前期課程			小計	博士後期課程			小計	研究生等			小計	合計			総計
	国費	政府	私費		国費	政府	私費		国費	政府	私費		国費	政府	私費		国費	政府	私費	
中国	0	0	40	40	0	0	36	36	0	0	23	23	0	0	11	11	0	0	110	110
マレーシア	0	3	8	11	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	12	15
韓国	0	0	7	7	0	0	2	2	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	11	11
ハンガリー	0	0	0	0	2	0	2	2	5	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	7
インドネシア	0	0	0	0	1	0	1	1	2	0	1	3	0	0	2	2	3	0	3	6
ネパール	0	0	0	0	0	0	3	3	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	3	4
ベトナム	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	4	4
インド	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	3	0	0	3
タイ	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	2
ドイツ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1
ハンガリー	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
パキスタン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1
台湾	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1
小計	0	3	57	60	4	0	49	49	13	0	28	41	0	0	16	16	17	3	146	166

注1 学部私費留学生には UniKL JUP プログラム 2 名を含む。

表3 留学生数(年度別)集計(各年5月1日現在)

	学 部			博士前期課程			博士後期課程			研究生等			小 計			合 計
	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	
1979	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	2
1980	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	4	0	4
1981	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	5
1982	0	6	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	7	0	8
1983	0	6	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	8	0	9
1984	0	4	0	1	0	1	0	0	0	0	3	0	1	7	1	9
1985	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	4	0	0	5	3	8
1986	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	3	0	2	4	1	7
1987	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	1	1	3	1	2	6
1988	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5	0	1	10	0	1	11
1989	0	2	0	11	0	0	0	0	0	1	3	0	12	5	0	17
1990	0	4	0	14	0	0	2	0	0	3	2	3	19	6	3	28
1991	0	5	0	11	0	1	5	0	0	1	0	3	17	5	4	26
1992	0	5	0	8	2	5	9	0	4	1	0	2	18	7	11	36
1993	0	3	0	7	5	9	11	0	5	5	0	0	23	8	14	45
1994	0	2	1	12	4	8	12	0	6	3	0	1	27	6	16	49
1995	0	3	2	8	1	8	14	0	5	3	0	1	25	4	16	45
1996	0	5	5	5	1	5	14	0	4	9	0	4	28	6	18	52
1997	0	11	5	12	0	3	15	0	2	0	0	4	27	11	14	52
1998	0	14	4	12	0	3	11	0	4	2	0	4	25	14	15	54
1999	0	14	2	9	0	2	13	0	6	3	0	4	25	14	14	53
2000	0	13	2	10	1	7	12	0	3	3	0	3	25	14	15	54
2001	0	12	3	5	1	11	18	0	3	1	0	1	24	13	18	55
2002	1	10	3	2	0	10	14	1	8	1	0	2	18	11	23	52
2003	1	9	7	2	0	13	17	0	7	0	0	4	20	9	31	60
2004	0	9	5	2	0	17	12	0	7	0	0	5	14	9	34	57
2005	0	12	7	2	1	14	9	0	5	0	0	2	11	13	28	52
2006	0	13	9	2	1	10	5	0	4	0	0	1	7	14	24	45
2007	1	16	8	1	0	6	4	0	5	1	0	5	7	16	24	47
2008	1	25	10	1	0	9	3	2	5	0	0	18	5	27	42	74
2009	0	29	11	1	1	19	3	3	10	0	1	22	4	34	62	100
2010	0	34	12	0	1	20	4	3	16	0	0	18	4	38	66	108
2011	1	34	11	1	0	12	2	3	23	0	0	19	4	37	65	106
2012	1	24	15	2	1	17	2	1	21	0	0	16	5	26	69	100
2013	0	29	18	2	1	21	2	0	22	0	0	13	4	30	74	108
2014	1	26	34	2	0	20	4	0	24	0	0	12	7	26	90	123
2015	0	17	42	6	0	25	6	0	24	0	0	15	12	17	106	135
2016	0	14	43	7	0	25	5	0	32	0	0	23	12	14	123	149
2017	0	22	51	4	0	15	4	1	38	0	0	17	8	23	121	152
2018	1	27	59	4	0	27	6	1	41	0	0	17	11	28	144	183
2019	1	23	78	2	0	35	8	2	40	0	0	21	11	24	174	210
2020	1	18	88	3	0	36	8	1	50	0	0	10	12	19	184	215
2021	1	18	85	3	0	43	9	1	41	0	0	13	13	19	182	214
2022	0	10	78	2	0	41	10	1	34	0	0	12	12	11	165	188
2023	0	3	57	4	0	45	13	0	28	0	0	16	17	3	146	166

グラフ 1 過去20年の留学生数(年度別)集計の推移(各年5月1日現在)



7.2 奨学金

私費外国人留学生の奨学金受給状況は表4のとおりであり、私費留学生の31%が奨学金を受給している。

表4 各種奨学金の受給(身分別)状況(2022年10月1日現在)

奨学金名	学部 (76)	博士 前期課程 (45)	博士 後期課程 (32)	研究生 (3)	特別 研究学生 (11)	特別 聴講学生 (0)	科目等 履修生 (0)	合計 (167)
室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金(月額30,000円)	6	16	3	0	0	0	0	25
室蘭工業大学短期留学生(受入れ)支援奨学金(月額50,000円)	0	0	0	0	0	0	0	0
CSC-MuroranIT奨学金 (月額30,000円)	0	0	2	0	4	0	0	6
JASSO 私費外国人留学生学習奨励費 (月額48,000円)	6	2	0	0	0	0	0	8
JEES 留学生奨学金(修学) (月額40,000円)	0	1	1	0	0	0	0	2
JEES 留学生奨学金(コロナ対応特別枠) (月額40,000円)	0	2	0	0	0	0	0	2
JEES・MUFG 緊急支援奨学金(一時金) (年額300,000円)	0	1	0	0	0	0	0	1
財団法人日揮・実吉奨学会 留学生給与奨学金(年額300,000円)	0	1	0	0	0	0	0	1
ドコモ留学生奨学金 (月額120,000円)	0	1	0	0	0	0	0	1
佐藤陽国際奨学財団奨学金 (月額40,000円)	1	0	0	0	0	0	0	1
朝鮮奨学金(学部) (月額25,000円)	3	0	0	0	0	0	0	3
朝鮮奨学金(博士) (月額70,000円)	0	0	1	0	0	0	0	1
中国政府奨学金 (月額150,000円、170,000円)	0	0	3	0	5	0	0	8
マレーシア MJHEP プログラム (月額132,250円)	1	0	0	0	0	0	0	1
合計	17	24	10	0	9	0	0	60

注1 実受給者数は、52名である。

注2 上段（ ）は、私費外国人留学生数である。

注3 2022年度室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金の延べ受給者数は、40名であった。

注4 2022年度室蘭工業大学短期留学生（受入れ）支援奨学金の延べ受給者数は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、0名であった。

7.3 宿舎

(1) 研究員宿舎

宿舎名	部屋タイプ
国際交流会館(研究員宿舎)	シングル:6室、ツイン:1室

(2) 留学生宿舎

宿舎名	部屋タイプ	入居期間
国際交流会館(留学生宿舎1)	1名入居、12室	1年
明德寮	3名入居、25室	1年
大昭グリーンヒル2(留学生宿舎2 ※)	1名入居、6室	1年

※ 2019年10月より大学が借り上げた指定宿舎として運用。

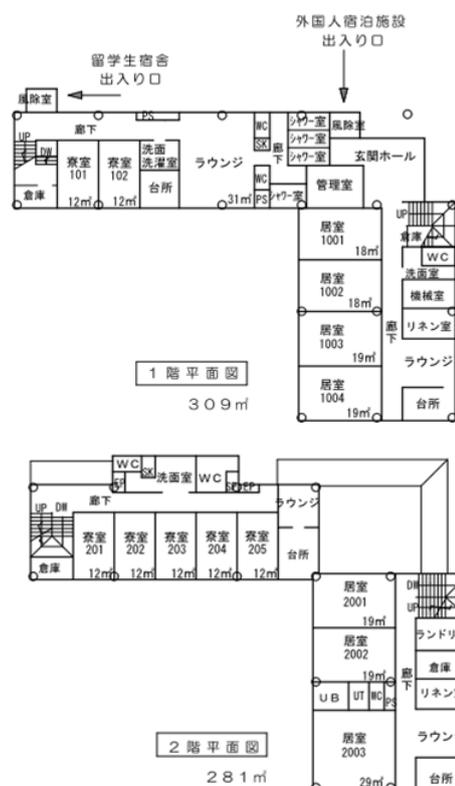
この他に室蘭市から、市営住宅22室を留学生用の宿舎として借り受けている。

7.3.1 国際交流会館

2012年度に職員会館と旧留学生宿舎を改修し、2012年11月に外国人研究員宿泊施設と留学生宿舎を併設した国際交流会館を竣工し、運用を開始した。



外観



7.3.3 大昭グリーンヒル 2(留学生宿舎 2)



外観



個室



台所

7.3.4 市営住宅(水元団地)



外観



和室



台所

8. 国際交流センター教員が担当した講義

8.1 国際交流センター教員担当講義一覧

国際交流センター教員が2022年度に担当した講義は、以下のとおりである。2022年度は大学院工学研究科のカリキュラム変更前最終年度であり、従前からの科目展開の最後の年となり、特に初級科目については移行のための準備の年となった。一方、2020年度からのコロナ禍対応も徐々に緩和され、対面展開も多くの科目で実施された。しかしながら、新入生となる留学生の一部は入国が遅れる事態は続き、学期始期から受講生が揃わないことも多く、入国時期に合わせた適宜対応にも追われる年となった。

2022年度前期(第1・第2クォーター)	2022年度後期(第3・第4クォーター)
初級日本語 ^{注1}	初級日本語
日本語初級 I A (日本語入門)	日本語初級 I A
日本語初級 I B	日本語初級 I B
日本語初級 II	日本語初級 II A ^{注1}
	日本語初級 II B ^{注1}
学部生対象 日本語科目	学部生対象 日本語科目
日本語 A-1 (読解)	日本語 A-2 (読解)
日本語 B-1 (作文) ^{注2}	日本語 B-2 (作文) ^{注2}
日本語 C-1 (科学技術日本語) ^{注2}	日本語 C-2 (日本事情: 日本文化と社会) ^{注2}
日本語 D-1 (日本語能力試験対策)	日本語 D-2 (日本語能力試験対策)
大学院生対象 日本語科目	大学院生対象 日本語科目
日本語 MA1 (会話)	日本語 MA2 (会話)
日本語 MB1 (作文上級) ^{注2}	日本語 MB2 (作文上級) ^{注2}
日本語 MC1 (科学技術日本語) ^{注2}	日本語 MC2 (日本事情: 日本文化と社会) ^{注2}
日本語 MD1 (作文中級)	日本語 MD2 (作文中級)
学部・大学院 共通科目	学部・大学院 共通科目
異文化交流 B/MA ^{注3}	異文化交流 A/MB ^{注3}
海外語学研修 ^{注4} 【実施なし】	海外語学研修 ^{注4} 【実施なし】
海外研修 ^{注5}	海外研修 ^{注6}

注1 初級日本語は、第1クォーターのみ正規科目で、第2クォーター以降は原則として非正規科目(単位付与なし)である。10月MC入学者に限り、翌期追認として正課扱いとしている。

初級IIは受講者の再履修を含む多様化、及び新人専任教員の着任により、一時的な分割対応とした。

注2 B1とMB1、C1とMC1、B2とMB2、C2とMC2はそれぞれ同一授業(学部・大学院合同授業)である。

注3 Aは理工学部、MBは大学院対象の科目名称である。前期開講の異文化交流B/MAの担当は、理工学基礎教育センター所属のクラウゼ小野マルギット教員である。

注4 海外語学研修、海外研修については第12章に述べる。

注5 本学主催のプログラムではなく、海外学術協定校主催のプログラムにより実施したものである。

注6 本学主催のプログラムとしてコロナ以降初めて再開したプログラムである。渡航時期が学期末で、2~3月の渡航として実施されたため、単位認定自体は翌期追認として取り扱った。

8.2 初級日本語授業

国際交流センターでは、日本語学習経験が少ない、又は全くない学生を対象に初級レベルの日本語コースを開講している。主に大学院生、研究生及び本学協定校からの交換留学生在が受講する。

- (1)日本語初級ⅠA(前期) <曜日による教室対面と遠隔同時双方向の併用>
担当:山本さやか(非常勤講師) 時間数:3時間(2回)/週
受講者数:3名 使用教材:『日本語初級Ⅰ 大地』(12課まで)
- (2)日本語初級ⅠA(後期) <教室対面展開>
担当:坂本裕子(新任) 時間数:3時間(2回)/週
受講者数:11名 使用教材:『日本語初級Ⅰ 大地』(12課まで)
- (3)日本語初級ⅠB(前期) <教室対面展開>
担当:山本さやか・伊藤直美(非常勤講師) 時間数:3時間(2回)/週
受講者数:3名 使用教材:『日本語初級Ⅰ 大地』(13課以降)
- (4)日本語初級ⅠB(後期) <教室対面展開>
担当:坂本裕子(新任)、伊藤直美(非常勤講師) 時間数:3時間(2回)/週
受講者数:4名 使用教材:『日本語初級Ⅰ 大地』(13課以降)
- (5)日本語初級Ⅱ(前期) <教室対面展開>
担当:山本さやか・伊藤直美(非常勤講師) 時間数:3時間(2回)/週
受講者数:4名 使用教材:『日本語初級Ⅱ 大地』(32課まで)
- (6)日本語初級ⅡA(後期) <教室対面展開>
担当:坂本裕子(新任)、伊藤直美(非常勤講師) 時間数:3時間(2回)/週
受講者数:2名 使用教材:『日本語初級Ⅱ 大地』(32課まで)
- (7)日本語初級ⅡB(後期) <教室対面展開>
担当:坂本裕子(新任)、小野真嗣 時間数:3時間(2回)/週
受講者数:3名 使用教材:『日本語初級Ⅱ 大地』(39課まで)
※前期大学院科目の日本語 MA1を踏襲しつつ、初級ⅡBとして日本語 MA2の展開とした。

8.3 学部・大学院 日本語科目

【学部生対象】

正規の日本語科目は、学部生対象科目(中～上級)と大学院生対象科目(初～中級)および学部生・大学院生対象科目(中級)があり、各自が強化したい技能に応じて授業を選択できるようになっている。

- (1)日本語 A-1(前期) <教室対面展開>
担当:小野真嗣 時間数:1.5時間(1回)/週
レベル:上級 受講者数:4名
授業内容:日本語の読解力を高めることを希望する学生向けに、新聞記事を中心とした長文を正確に読解し、選択問題を通じた内容理解、及び記述回答、200字程度の意見論述を行う授業を展開した。

(2) 日本語 A-2(後期) <教室対面展開>

担当:坂本裕子(新任)

時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:上級

受講者数:6 名

授業内容:日本語のさまざまな文章を批判的に読み、議論を行うことを通じて、他者の思考を理解し自己の思考を深めること、およびそれを論理的に伝えるための表現力の養成を図った。

(3) 日本語 D-1(前期) <教室対面展開>

担当:白 尚燁

時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:中上級

受講者数:4 名

授業内容:日本語能力試験N1受験を希望する学生のために、対策問題集を使って語彙・文法・読解を中心に受験対策の授業を行った。

(4) 日本語 D-2(後期) <教室対面展開>

担当:白 尚燁

時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:中上級

受講者数:1 名

授業内容:前期と同様の授業展開である。

【大学院生対象】

(5) 日本語 MA1(前期) <教室対面展開>

担当:小野真嗣

時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:初級

受講者数:5 名

使用教材:『日本語初級2 大地』33 課以降

授業内容:初級後半の文型・表現を用いて会話力の向上を図った。

(6) 日本語 MA2(後期) <教室対面展開>

担当:小野真嗣、坂本裕子(新任)

時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:初級

受講者数:3 名

使用教材:『日本語初級2 大地』33 課以降

授業内容:大学院カリキュラムの変更前最終学期で、今後の MA1/MA2 の廃止と、新カリキュラムの日本語初級 A/B への移行に伴い、初級ⅡBとして初級科目の位置付けとしての単位認定化を踏まえ、前期と同内容で実施した。

(7) 日本語 MD1(前期) <教室対面展開>

担当:白 尚燁

時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:中級

受講者数:1 名

授業内容:日本語能力試験N2 受験を希望する学生のために、対策問題集を使って語彙・文法・読解を中心に受験対策の授業を行った。

(8) 日本語 MD2(後期) <教室対面展開>

担当:白 尚燁

時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:中級

受講者数:1 名

授業内容:前期と同様の授業展開である。

【学部・大学院共通】

(9) 日本語 B-1・MB1(前期) <遠隔同時双方向>

担当:山本さやか(非常勤講師) 時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:中級～上級 受講者数:2 名

授業内容:文章作成に必要な日本語の知識の導入と日本語による文章作成の基礎的な訓練を行った。コースの前半では読み手の立場に立った分かりやすい文章の書き方、後半では論理的な文章の構造や表現を扱い、アカデミックな文章を書くための基礎的技術の育成を図った。

(10) 日本語 B-2・MB2(後期) <教室対面展開>

担当:小野真嗣 時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:中級～上級 受講者数:2 名

授業内容:就学中、就学後に触れる中上級レベルの日本語作文を作文課題形式で実施した。自己推薦書、就学目的、研究計画などの学業面のみならず、企業内文書などのビジネス場面での文書作成や形式習熟のための科目として実施した。

(11) 日本語 C-1・MC1(前期) <教室対面展開>

担当:小野真嗣 時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:中級 受講者数:3 名

授業内容:科学技術分野にかかわるトピックのテレビ番組や雑誌記事等を材料に、大学・大学院で学ぶための基礎的な語彙・表現を理解し適切な文脈で使用できるようになるとともに、抽象的な事柄を説明する文章を組み立てられるようになることをめざす総合的な訓練を行った。遠隔授業で利用した Moodle を介してのビデオ映像や音源の配信が容易になり、授業外の視聴も一部で自主的に行われた。

(12) 日本語 C-2・MC2(後期) <教室対面展開>

担当:小野真嗣 時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:中級 受講者数:3 名

授業内容:日本の文化・社会に焦点を当て、導入教材として文献資料やビデオを用い言語受容力を養いつつ、日本と自国の慣習、文化、宗教等の差異についても客観的に説明できるプレゼンテーションによる発信力の養成を図った。

なお、8.2 に記載の初級日本語科目群と合わせ、大学院展開の日本語科目群(入門、および MA1～MD2 計 9 科目)は、大学院の新カリキュラム移行に伴い、日本語初級 A/B と日本語中上級 A/B の 4 科目に統廃合される予定である。今後は、日本語による就学の留学生、英語による就学の留学生を問わず、誰でも日本語科目を受講し一定の成績を修めることで、副専修科目 2 単位を満たすことができる制度へ改善される。多様な外国人留学生が習熟レベルに応じた日本語科目を就学し、非単位とならず正課の単位として認定できるよう、さらなる便宜が図られる予定である。

8.4 学部 副専攻科目・大学院 副専修科目

上記の日本語科目の他、国際交流センターでは学部生対象副専攻科目と大学院生対象副専修科目がある。こちらは留学生専用科目ではなく、日本人学生と一緒に学ぶ共修科目となる。

(13) 異文化交流 A・MB(後期) <教室対面展開>

担当:小野真嗣

時間数:1.5時間(1回)／週

レベル:上級

受講者数:29名

授業内容:日本人学生と外国人留学生の合同参加科目であり、教員による講義の他、学生間の調査活動を通じ、授業内アクティビティやプレゼンテーションを行って文化理解を相互に深める授業である。前半は公用語に焦点をあて、各国の言語運用事情や背景について国籍別グループによる集団発表とし、後半は文化に関するトピックを学生が個々に選び、国籍混合型グループにより国・地域別の違いに留意した調査活動・発表とした。

2022年度は少しずつ外国人留学生の参加が戻って来ており、例年の日本人学生と半数ずつという環境は構築できないものの、半分にほぼ近づく13名の外国人留学生が受講したため、対面による外国人との直接的なコミュニケーションの場は確保できることとなった。また宮崎国際大から4名の日本人学生、1名の米国人学生、外国人教員2名の授業見学もあり、リアルな交流の良い機会にも恵まれた。さらに遠隔授業で培った技術を活かし、オーストラリア RMIT やモンゴル IET といった協定校学生との交流機会を複数回授業に導入でき、様々な異文化交流機会の確保に努めた。

上記の他、通常の副専修科目として展開されている科目に、次の科目がある。

(14) 国際関係論特論(前期) <教室対面展開>

担当:白 尚燁

時間数:1.5時間(1回)／週

レベル:上級

受講者数:17名

授業内容:この授業では、緊張関係にある国・地域を対象に、該当する国・地域に関する理解を深めることで、緊張関係の背景には何があるか、検討することを目的とする。

なお、従来は旧制の工学部カリキュラムにあった「国際関係論」は理工学部への完成年度に伴い廃止となった。また、上記にある大学院科目の「国際関係論特論」が展開されていたが、学年進行に伴って2022年度をもって廃止となる。翌2023年度以降は、大学院の新カリキュラム移行に伴い後継科目として「言語文化特論 B」が新規展開される予定である。

9. 室蘭工業大学国際セミナー

同セミナーは、学生と市民の皆さんとともに、世界のさまざまな国や地域について勉強し合い、国際的な視野を拓けることを目的としている。

第 52 回 室蘭工大国際セミナー

開催日： 2023 年 1 月 20 日

テーマ： 「多様な言語の世界へのお誘い～消滅危機に瀕している少数言語を中心に～」

講演者： 本学国際交流センター 准教授
白 尚燁氏



ZOOM 画面上での参加者との記念撮影の様子

10. 留学生を対象とした行事及び研修等

10.1 国際交流センター主催行事

開催日	行事名	行事の内容	参加者数
2022年 5月13日	留学生オリエンテーション	新たな留学生に対して、オンラインにて留学生関係教職員の紹介を行い、日本での生活上の注意事項を説明する。	留学生 22名
2022年 5月下旬	新入学生歓迎会	新たな留学生に在籍中の留学生及びチューターを紹介し、懇親会を行う。	中止(※1)
2022年 6月上旬	室蘭岳登山	国際交流センターで主催。留学生が室工大ワンダーフォーゲル部・国際交流クラブとの学生間交流を深めることを目的とする。	中止(※2)
2022年 6月中旬	登別鬼花火見学会	室蘭周辺の観光名所を案内する目的で、登別温泉の名物行事「登別鬼花火」を見学。	中止(※1)
2022年 8月上旬	国際交流センター長杯 玉入れ大会	前期の授業終了に合わせ、国際交流センター長杯玉入れ大会を実施する。ゲームの後は、応援していた学生を含む参加者全員でおつかれさま会を行い、交流を深める。	中止(※1)
2022年 9月上旬	夏の見学旅行	留学生に対し、北海道内の自然や特有の産業施設等を見学させることによって、北海道の文化、歴史、産業等についての知識・理解を深める。	中止(※1)
2022年 9月下旬	9月卒業・修了おめでとう 送別会	9月修了生(短期留学生含む)の修了を記念して、送別会を実施した。	中止(※1)
2022年 10月中旬	秋季新入生歓迎ウェルカム ランチパーティー	新入留学生を対象にランチパーティーを行い、寮のリーダーの紹介等を行う。	中止(※1)
2022年 10月29日	秋の見学旅行	4月以降に入学した留学生を中心に、室蘭市・壮瞥町・洞爺湖町の観光名所を案内し、胆振地域に関する理解を深めさせるとともに、留学生同士の交流を図る目的で実施した。	留学生・家族 26名
2022年 11月4日	生活安全講習会	2022年度入学の留学生を対象に、交通事故、火災、地震及びインターネット犯罪などの事件・事故の防止のため、留学生生活安全講習会をオンラインで実施した。	留学生 44名
2023年 1月4日	野外セミナー	南国出身が多く、冬期間部屋に閉じこもりがちな留学生に対して、北国の冬期間の楽しみ方を紹介している。	留学生・家族 55名
2023年 2月13日	留学生交流会	卒業・修了予定の留学生に対して学長からお祝いの挨拶があり、スライドショーが上映された。	留学生 19名

※1 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、中止となった。

※2 悪天候のため中止となった。



秋の見学旅行



野外セミナー



留学生交流会

10.2 学外の諸行事への留学生派遣及び参加の状況

10.2.1 講師派遣

開催日	主催	行事名	留学生派遣人数
2022年4月～2023年3月	室蘭身体障害者福祉協会	英会話講座講師派遣	1
2022年6月20日	登別明日中等教育学校	AKB English Day (オンライン開催)	3
2022年11月2日	みなと小学校	国際交流教室	2
2022年11月25日	八丁平小学校	国際交流教室	3
2022年11月29日・11月30日	蘭北小学校	国際交流教室	2
合計			11



AKB English Day でのオンライン開催の様子



蘭北小学校での国際交流教室の様子

10.2.2 学外支援団体等支援行事

開催日	主催	行事名	行事の内容	留学生 参加人数
2022年 5月上旬	長沼ロータリークラブ	長沼国際交流 フェスティバル	長沼国際交流フェスティバルに本学の留学生が参加。	中止 (※1)
2022年 5月下旬	室蘭北ロータリークラブ	室蘭岳登山	室蘭北ロータリークラブ主催により、室蘭岳(標高911メートル)登山が開催され、室蘭北ロータリークラブの皆様と登山をしながら交流を深める。	中止 (※1)
2022年 6月下旬	室蘭市	イルカ・鯨ウォッチング	室蘭市の招待によりイルカ・鯨ウォッチング体験乗船に参加する。	中止 (※2)
2022年 7月29日	むろらん港まつり実行委員会	市民踊り	むろらん港まつりのイベントの1つである「総参加市民おどりに」に留学生が参加する。大学職員とともに「室蘭ばやし」や「北海盆唄」に合わせて街を踊り歩き、日本のお祭りを楽しむ。	留学生 19名
2023年 2月11日	室蘭市国際交流 推進協議会 (協賛:国際ソプロチミスト)	さっぽろ雪まつり見学会 バスツアー	・雪まつり大通会場の見学。 ・北海道大学総合博物館の見学。	留学生・家族 25名
合 計				44

※1 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、中止となった。

※2 悪天候のため中止となった。

10.2.3 その他の行事

開催日	主催	行事名	留学生 参加人数
随時	室蘭社会福祉協議会	雪かきレンジャー	14
合 計			14



むろらん港まつり実行委員会主催
むろらん港まつり 市民おどりの様子



室蘭市国際交流推進協議会(協賛:国際ソプロチミスト)
さっぽろ雪まつり見学会バスツアーの様子

11. 学術交流協定校・機関との交流

11.1 協定校等への訪問

(1) 台湾・国立勤益科技大学

- ・訪問日程：2022年12月10日～12日
- ・訪問者：学長 空閑 良壽
ひと文化系領域 准教授 小川 祐紀雄
ひと文化系領域 准教授 坂本 裕子
- ・訪問内容：国立勤益科技大学創立50周年式典、学術交流協定締結、表敬訪問、研究施設・機関の見学、学術交流に関する協議等



創立50周年式典開会式



創立50周年式典空閑学長祝辞



調印を終えた陳学長と空閑学長



調印式での記念撮影

(2) 台湾・国立台中科技大学

- ・訪問日程：2022年12月13日
- ・訪問者：学長 空閑 良壽
ひと文化系領域 准教授 小川 祐紀雄
ひと文化系領域 准教授 坂本 裕子
- ・訪問内容：表敬訪問、研究施設・機関の見学、学術交流に関する協議等



謝学長への記念品贈呈



記念撮影

11.2 外国、協定校等からの訪問受け入れ

(1) アメリカ・テネシー大学ノックスビル校

- ・ 訪問日程：2022年6月8日
- ・ 訪問者：Dr. Gretchen Neisler, Vice Provost for International Affairs
Dr. Rachel Rui, Office of Asia Engagement
Dr. Noriko Horiguchi, Associate Professor and Chair, Japanese Program
Dr. Krista Wiegand, Associate Professor, Political Science
- ・ 訪問内容：表敬訪問、研究施設・機関の見学、学術交流に関する協議等



学長表敬訪問



国際交流センターとの協議

(2) 台湾・国立勤益科技大学

- ・ 訪問日程：2022年12月13日
- ・ 訪問者：副学長 Prof. Dr. Win Jet LUO
エネルギー学科 Prof. Dr. Yu-Lieh WU
機械工学学科 Prof. Dr. Tsung-Chia CHEN
コンピューターサイエンス学科 Prof. Dr. Chuan-Wang CHANG
国際交流室 Ms. Chantal HSU
- ・ 訪問内容：学長表敬訪問、研究施設・機関の見学、学術交流に関する協議等



学長表敬訪問



学術交流に関する協議

(3) タイ・マハサラカム大学

- ・ 訪問日程：2023年3月30日
- ・ 訪問者：副学長 Assoc. Prof. Orawich Kumphon 他24名
- ・ 訪問内容：表敬訪問、研究施設・機関の見学、学術交流に関する協議等

12. 学生の海外への派遣

12.1 学術交流協定校への派遣留学

1. 学生氏名: 松林 大揮
所 属: 情報電子工学系専攻 2年
派 遣 先: トロワ工科大学(フランス)
期 間: 12ヶ月間(2022年6月～2023年5月)
経済支援: 日本学生支援機構海外留学支援制度(協定派遣)
2. 学生氏名: 阿部 奈津輝
所 属: 創造工学科 3年
派 遣 先: ツヴィッカウ応用科学大学(ドイツ)
期 間: 12ヶ月間(2023年3月～2024年2月)
経済支援: 日本学生支援機構海外留学支援制度(協定派遣)

12.2 タイ・泰日工業大学 TNI サマープログラム

期間: 2022年8月24日～9月1日

内容: 泰日工業大学における文化交流・学生交流、タイ国内企業の工場見学など

参加者: 1名(男子1名)

1. 金塚 天志 創造工学科 1年

12.3 国際共同研修プログラム

(1) モンゴル・工業技術大学

期間: 2023年2月27日～3月3日

内容: エンジニアリングデザインの実習による研修プログラム

参加者: 4名(男子1名、女子3名)

1. 木下 はるひ 創造工学科 4年
 2. 西村 玲偉 創造工学科 4年
 3. 塩原 ひかり システム理化学科 4年
 4. 後藤 梨那 創造工学科 2年
- プログラム担当: 小野 真嗣 ひと文化系領域 准教授
引率: 澤田 紋佳 しくみ解明系領域 准教授

(2) ネパール・トリブバン大学

期間: 2023年3月2日～8日

内容: ネパール文化に触れる共同研修ワークショップ

参加者: 6名(男子4名、女子2名)

1.	金塚 天志	創造工学科	1年
2.	片岸 祥帆	システム理化学科	4年
3.	福島 祥之	システム理化学科	4年
4.	加藤なつみ	創造工学科	2年
5.	高瀬 空晴	創造工学科	2年
6.	竹内 大訓	創造工学科	2年
プログラム担当:	佐藤 和彦	しくみ解明系領域	准教授
引率:	白 尚燁	ひと文化系領域	准教授

12.4 ムロラン・グローバル・ステージ・チャレンジ奨学生

1. 学生氏名: 野村 未来
所 属: 環境創生工学系専攻 1年
活動内容: National Organic Chemistry Symposium(アメリカ)
期 間: 2022年6月26日～30日
2. 学生氏名: 加藤 なつみ
所 属: 創造工学科 2年
活動内容: ShiriBeshi 留学サマープログラム(日本)
期 間: 2022年8月3日～9月1日
3. 学生氏名: 堤 知里
所 属: 環境創生工学系専攻 2年
活動内容: ICPAC KOTA KINABALU 2022(マレーシア)
期 間: 2022年11月24日～27日

12.5 佐藤矩康博士記念国際活動奨励賞

本奨励金は、年 2 回募集し、8 名程度に各 10 万円を授与する。今年度の受賞者はいなかった。

賞の由来と趣旨

本奨学賞は、医学博士で博士(工学)である佐藤矩康先生のご寄附によって、2009 年に創設されました。本学在学中の学部及び大学院の学生が海外国際会議での論文発表、海外での研究プロジェクト参画、海外インターンシップなど、国際的な場で活動し、成果を上げることがを支援し、奨励することを目的としています。

佐藤矩康先生は昭和 2 年、北海道富良野町に生まれ、北海道大学医学専門部を卒業後、医師、医学博士として医業に従事される傍ら、多年、刀剣考古学の研究に携わり、平成 18 年「X 線 CT 法による上古刀のはばき構造の解析」によって室蘭工業大学から博士(工学)の学位(主査 桃野正教授)を授与されました。また長年、私的な奨学財団により学生生徒の就学を支援しておられます。

本奨学賞が、学生の皆さんの国際意識・国際能力の向上に繋がり、ひいては室蘭工業大学の教育研究の活性化にいささかでも寄与することを希望します。

故 佐藤矩康(さとう のりやす)博士 略歴

昭和 2 年 4 月 北海道富良野町生まれ

名寄小学校、名寄中学校を経て、

昭和 25 年 3 月 北海道大学医学専門部卒業

昭和 25 年 4 月 北海道立札幌医科大学内科学教室入局 医師

以後 日高門別町 町立病院内科医長、南幌町 町立病院院長 等を歴任

昭和 34 年 10 月 札幌市白石区にて、眼科医和子夫人と「内科眼科共立診療所」開設

平成 12 年 4 月 信佑会吉田記念病院医師、聖愛会発寒中央病院医師

平成 23 年 9 月 逝去

12.6 海外留学セミナー

本学の留学プログラム及び留学奨学金の紹介等により派遣留学の意義と効果を広く PR した。

開催日時: 2022 年 5 月 30 日、6 月 1 日

場 所: 教育・研究 3 号館 N101、N202

参加学生数: 約 30 名

12.7 海外語学研修説明会

海外語学研修説明会は、各語学研修に参加した学生に体験を発表した後に、教員から語学研修の概要を説明し、幅広く語学研修の PR をする目的で実施している。

【ロイヤルメルボルン工科大学(RMIT)語学研修】

開催日時: 2022 年 11 月 9 日、15 日

場 所: 教育・研究 3 号館 N202

参加学生数: 約 10 名

13. 外国人短期研修生・外国人インターンシップ研修生・外国人研究員受入れ

13.1 外国人短期研修生受入れ

外国人短期研修生受入れ制度は、本学の学術交流協定校の正規課程に在籍する外国人学生が本学において研修（講義、演習、実習等）を受けるものである。

RMIT 日本語研修生受入 ※2022 年度は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、中止となった。←？

期 間：10月下旬～11月中旬

内 容：本研修は、本学学術交流協定校のオーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学（RMIT）で日本語を学ぶ学生の受け入れである。当研修は、夏に実施した本学の RMIT 短期派遣研修と双方向の研修として行われ、学生同士が活発に交流を行う。日本語による授業、北海道の自然や文化施設等の見学、ホームステイ体験及び実施体験等により研修を行う。

13.2 外国人インターンシップ研修生及び短期研修生受入れ

インターンシップ研修生受入制度は、外国の大学の正規課程に在籍する外国人学生が、本学において実施する研究、実験、解析、設計、製作等の研修プログラムに参加するものである。

令和 4 年度は下記のとおり 3 名のインターンシップ研修生を受け入れた。

氏名	国	大学等	受入期間	受入教員
SIRIN PROMMAKHOT	タイ	メーファールアン大学	2022/5/17－2022/8/6	有村 幹治
LE-NGO HOANG THONG	ドイツ	ツヴィッカウ応用科学 大学	2022/10/1－2023/2/9	清水 一道
MUNKH-OD TERGEL	モンゴル	工業技術大学	2023/1/6－2023/1/20	小野 真嗣

短期研修生受入制度は、本学と学術交流協定を締結している外国の大学の正規課程に在籍している学生で、本学において3月以内の研修（講義、演習、実習等）に参加するものである。2022 年度は受入れ実績がなかった。

13.3 外国人研究員受入れ

本学独自の滞在費支援制度である室蘭工業大学外国人客員研究員支援経費は、2012年度から国際連携による共同研究の展開を目的として創設された。

2022年度は下記のとおり4名の外国人客員研究員を受け入れた。

氏名	国	大学等	受入期間	受入教員
YU HAIYOU	中国	吉林財経大学	2022/6/16－2023/6/16	高橋 雅朋
SHI JIANJUN	中国	海南師範大学	2022/7/28－2023/1/10	庭山 聡美
MONA YUTTANA	タイ	チェンマイ大学	2022/11/1－2022/11/30	関根 ちひろ
JOKO WIDODO	インドネシア	国立研究革新庁宇宙航空研究機構	2023/1/13－2023/3/31	泉 佑太

14. 国際交流クラブ

国際交流クラブは、本学の公認課外活動団体（学生サークル）で、1994年に、その当時の留学生数人が中心となり、自分たちより年若い日本人の学生たちに、親睦と交流を呼びかける形で発足した。その後、異文化との触れ合いに関して意識の高い日本人学生たちが積極的に呼応して「国際交流クラブ」が創設され、以来20年以上が経過して留学生の数も出身国も増えたことにより、一年を通じて活発に国際交流が行われるサークルとなった。

コロナ禍以前は大学祭への参加や、お花見やジンギスカンなど、日本・北海道らしい活動とともに行うほか、日常生活の中で留学生と日本人学生の交友・交流が見られていたが、2020年以降はソーシャルディスタンスや遠隔授業の普及もあって、現在までのところ対面的な活動は影を潜めている。

しかしながら、そのような厳しい交流環境の中でも、学内留学生とのZoomによるオンライン交流を実施したり、遠隔機器の長所を活かして海外大学との直接的なオンライン交流までも実施でき、コロナ禍ならではのニューノーマルと言える活動が行われはじめている。これらは国際交流センター専任教員が顧問教員を務め、積極的に関与することで、コロナ禍で出来る限りの異文化交流の創出やモチベーション維持へとつながっている。コロナ後の海外派遣留学の再開、また短期の外国人留学生や海外インターンシップ研修生の受入時のサポーター活動等につながるよう、学生主体の異文化交流活動を、国際交流センターは支援している。



2022年度の国際交流クラブ集合写真

15. 広報活動

15.1 国際交流センターホームページ

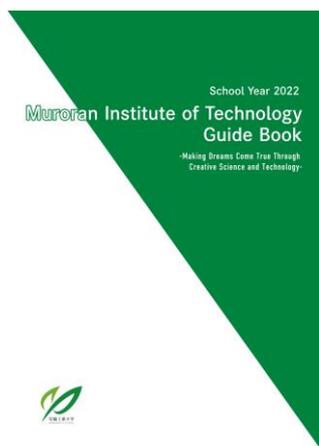


日本語版トップページ



英語版トップページ

15.2 英文概要・国際交流センターNews



英文概要



国際交流センターNews 14号

15.3 オリジナルグッズ



風呂敷



スマホスタンド



トートバッグ



ポケットティッシュ

15.4 広報活動グッズ



旗



イスカバー

16. 教員の研究活動

木幡 行宏

○論文

- (1) 菅原正則, 松田圭大, 木幡 行宏, 畑山良二, 川端 伸一郎, 寒冷地におけるガラス発泡軽量材の舗装材料への適用性に関する研究, 土木学会論文集 E1, 78 巻, 2 号, pp. I_274-I_282, 2023 年 2 月.
- (2) Hung. L. K., Kohata. Y., “Strength and Deformation Properties of Liquefied Stabilized Soil Prepared by Various Conditions”, International Journal of GEOMATE, 23(98), pp. 179-188, 2022 年 10 月.

○国際会議 Proceedings

- (1) Xi. B., Kohata. Y., “Effect of curing conditions on triaxial shear properties of Liquefied Stabilized Soil reinforced with fiber prepared by various slurry density”, Proceedings of 2022 GeoAsia7 Conference, 2022 年 11 月.

○研究報告

- (1) 遠藤弘気, 木幡行宏, 菅原正則: 軽量盛土材・珪砂混合材料の三軸せん断特性に及ぼす粒度分布の影響, 地盤工学会北海道支部技術報告集, 63 号, pp. 305-310, 2023 年 1 月.
- (2) 渡邊詩織, 木幡行宏, 岡田稜平, Le Khac Hung: 圧縮側での繰返し载荷を受ける繊維材混合流動化処理土の変形特性, 地盤工学会北海道支部技術報告集, 63 号, pp. 121-126, 2023 年 1 月.
- (3) 二階堂樹, 木幡行宏: PIV 解析による巻き込みジオグリッド補強地盤の変形挙動, 地盤工学会北海道支部技術報告集, 63 号, pp. 69-74, 2023 年 1 月.
- (4) 菅原正則, 木幡行宏, 菊池優希, 海部友和, 遠藤弘気: 軽量盛土混合材の強度に及ぼす粒度と粒子内間隙の影響, 地盤工学会北海道支部技術報告集, 63 号, pp. 311-316, 2023 年 1 月.
- (5) 岡田稜平, 木幡行宏, 渡邊詩織, Le Khac Hung: 繰返し非排水三軸試験による繊維材混合流動化処理土の変形特性, 地盤工学会北海道支部技術報告集, 63 号, pp. 115-120, 2023 年 1 月.

○学会等発表 (口頭発表)

- (1) 二階堂樹, 木幡行宏: 巻き込みジオグリッド補強地盤の支持力特性に及ぼす補強体幅・厚さ及び相対密度の影響, 地盤工学会第 57 回地盤工学研究発表会, 第 57 回地盤工学研究発表会講演概要集, p. 22. 7-1-07, 2022 年 7 月 22 日, 新潟.
- (2) 岡田稜平, 木幡行宏: 原位置・室内養生による繊維材混合流動化処理土の強度・変形特性に及ぼす 泥水密度・養生日数の影響, 地盤工学会第 57 回地盤工学研究発表会, 第 57 回地盤工学研究発表会講演概要集, p. 21. 3-3-06, 2022 年 7 月 21 日, 新潟.
- (3) 遠藤弘気, 木幡行宏: 軽量盛土材・珪砂混合材料の強度・変形特性, 地盤工学会第 57 回地盤工学研究発表会, 第 57 回地盤工学研究発表会講演概要集, p. 20. 4-2-03, 2022 年 7 月 20 日, 新潟.

小野 真嗣

○国際会議 Proceedings

- (1) Ono. M., Soga T., Enrichment and Refinement of Language Learning Vocabulary Database, Chitose International Forum on Science & Technology 2022 (CIF22), Sep. 2022, Zoom Online, Japan.

○研究報告

- (1) 細川大和, 西山幹泰, 小野真嗣, 按田将吾, 菊地真人, 大冨忠親, 曾我聡起, 田邊鉄: 英語学習語彙表に基づく WordNet 収録語彙の抽出と可視化, 電子情報通信学会技術研究報告, 電子情報通信学会技術研究報告 (IEICE Technical Report), pp. 64-69, 2022 年 9 月.

○学会等発表 (口頭発表)

- (1) 小野真嗣, 曾我聡起, 菊地真人, 田邊鉄: 既存学習語彙表の再評価の試み - 学習サービスの視点から -, コンピュータ利用教育学会 (CIEC) PC カンファレンス 2022, PC カンファレンス論文集, pp. 252-255, 2022 年 8 月 12 日, Zoom Online.
- (2) 細川大和, 西山幹泰, 小野真嗣, 按田将吾, 菊地真人, 大冨忠親, 曾我聡起, 田邊鉄: 英語学習語彙表に基づく WordNet 収録語彙の抽出と可視化, 電子情報通信学会 人工知能と知識処理研究会 (AI) SMASH22 Summer Symposium, 電子情報通信学会技術研究報告 (IEICE Technical Report), pp. 64-69, 2022 年 9 月 16 日, アクトシティ浜松/Zoom Online.
- (3) 小野真嗣: 英語語彙表の再構築とデジタル教材化の検討 -GIGA スクール構想による 1 人 1 台端末環境を背景に-, 北海道言語研究会第 23 回例会, 2022 年 9 月 28 日, 室蘭工業大学.
- (4) 小野真嗣, 曾我聡起: 学習語彙情報の収集と語学教育への応用, コンピュータ利用教育学会北海道支部 (CIEC-Hokkaido) PC カンファレンス北海道 2022, PC カンファレンス北海道論文集, pp. 27-28, 2022 年 11 月 26 日, Zoom Online.

○外部資金獲得

- (1) 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 「既存英語語彙表の再活用に向けたユーザビリティ尺度による有効性測定と満足度調査」研究代表者.
- (2) 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 「工学系地方大学の協働による自律英語学習を支援する学習プラットフォームの構築」研究分担者.

白 尚燁

○論文

- (1) 白 尚燁, ツングース諸語の地理的分布による目的形式とその用法の相違, 北方言語研究 13 号, pp. 119-141, 2023 年 3 月.

○学会等発表 (口頭発表)

- (1) 白 尚燧, 地域言語学的観点から見たツングース諸語, 一般公開シンポジウム「環北太平洋地域の先住民社会の先史、言語、文化」, 2022年10月29日.
- (2) 白 尚燧, ツングース語族の同主語副動詞語尾を用いた異主語文現象について, 2022年度韓国アルタイ学会全国学術大会, 2022年11月19日.

○外部資金獲得

- (1) 科学研究費補助金 若手研究「サハリンエウエンキ語の記述：サハリンにおける言語接触とその歴史的変遷の解明」(研究代表者).
- (2) 科学研究費補助金 基盤研究(A)「シベリア先住民諸語の総合的研究：文献以前の歴史的空白の解明と言語類型論への展開」(研究分担者)

坂本 裕子

○講演(招待講演)

- (1) 坂本裕子, 日本語の語彙習得と学習意欲の高め方, 南台科技大学人文社会学院主催国際学術シンポジウム「BEITAC 2022」, 2022年10月28日.
- (2) 坂本裕子, リーダーシップとファシリテーション, 国立屏東大学応用日本語学科講演会, 2022年11月9日.

17. おわりに

国際交流センター准教授 白 尚燁

2023年度は、山路 奈保子センター長の他大学へ異動により、木幡 行宏副学長が国際交流センター長を兼任することになりました。

室蘭工業大学は、2022年度から6年間第4期中期目標・中期計画という新たなフェイズに入り、国際交流センターとしては「日本人学生の海外派遣数の向上」と「海外在住OBを活用した海外同窓会体制の整備」を新たな目標として設定し、目標達成に取り組み始めました。

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻や東西新冷戦時代の中、原油価格高騰や円安により、学生の海外留学が厳しい状況が続いています。これに対し、国際交流センターは海外渡航費支援額の増額をはじめとする海外派遣支援制度の見直しを通し、本学学生が海外に行きやすい環境作りに力を入れています。また、本学協定校であるマレーシア工科大学との、本学学生のマレーシア短期研修プログラム実施に関する協議に進展が見えてきて、来年度からは本学学生のマレーシア派遣が期待されます。また、同窓会組織に関しても、中国とマレーシアの卒業生を中心とするネットワークづくりに向け、準備に着手しました。

また、コロナ禍により、ストップ状態になっていた地域コミュニティとの交流やイベントが復活され、室蘭港まつりの市民踊りをはじめとする、多様なイベントに本学留学生が参加できることになり、地域市民との交流が少しずつ回復されていることを嬉しく思います。

日頃より本学国際交流センターの活動への惜しみないご支援を賜り、重ね重ねお礼と共に、今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



室蘭工業大学

MURORAN INSTITUTE OF TECHNOLOGY

室蘭工業大学 国際交流センター

〒050-8585 室蘭市水元町27番1号

<https://u.muroran-it.ac.jp/oia/>

E-mail: kokusai@muroran-it.ac.jp

TEL: (0143)46-5886

FAX: (0143)46-5889

